

運輸安全委員会ダイジェスト

JTSB (Japan Transport Safety Board) DIGESTS

第17号（平成27（2015）年4月発行）

船舶事故分析集

水上オートバイ事故の防止に向けて

1. はじめに	1
2. 事故の発生状況	2
3. 事故調査事例（4事例）	11
4. コラム	15
5. まとめ	16

1. はじめに

水上オートバイは、高出力・ウォータージェット推進装置などの特徴を有する小型の船舶で、海洋レジャーや救難機関・団体による水上でのパトロール・レスキューなどで幅広く利用されています。その一方で、水上オートバイの関与した事故が発生している現状があります。

平成21年から同26年までの6年間に運輸安全委員会が調査対象とした船舶の事故・インシデント（※）を調べてみたところ、水上オートバイ事故等では86.5%について死亡者・行方不明者・負傷者（※）が発生していました。これは、水上オートバイが関与しないその他の船舶事故等と比べて死傷者等の発生率が約3.5倍となっています。

このような死傷者等の発生率の高さは、高出力による急発進・急旋回や遊泳海域における運航、乗艇者の落水の容易性など水上オートバイ特有の運航形態によるものです。

夏場に向けて水上オートバイの利用が増えますので、これらの事故等について、統計資料とともに、事例の紹介を行うこととしました。

※ 「事故」とは、船舶の運用に関連した船舶等の損傷や人の死傷等を伴うものをいい、「インシデント」とは事故の兆候をいい、両方を合わせて「事故等」という。

※ 死亡者・行方不明者・負傷者を以下「死傷者等」という。



イラスト提供：NPO法人 パーソナルウォータークラフト安全協会／写真提供：山岡 宏氏